

入院をご検討中の方へ

診療サービスの

魅力

と

実績

新八千代病院

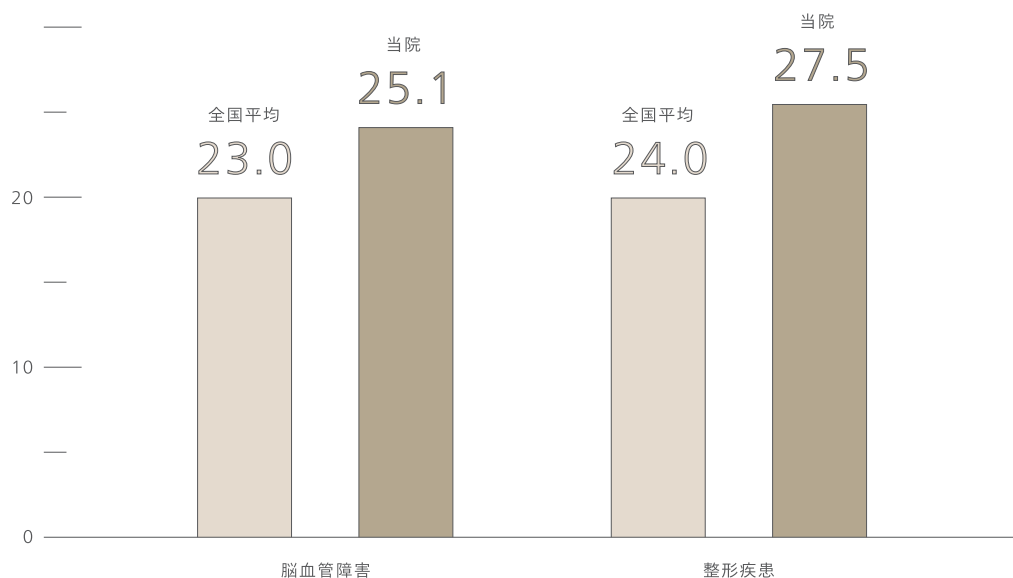
実績

目標を立て、回復への道筋をしっかりと計画。

リハビリ医療の豊富な経験をもとに、良好な治療実績を達成しています。

当院のFIM利得実績(2019)

*全国平均:「回復期リハビリテーション病棟の現状と課題」2017.2



回復の程度を示すデータで優れた実績

回復期リハビリテーション病棟では、脳血管障害や大腿骨骨折などを発症した方に対して、日常生活動作を向上させる目的でリハビリテーションを行います。当院では、個別に計画されたリハビリプログラムを効果的に実施し、回復の度合いを示す指標(ADL利得)において良好な診療実績を達成しています。

FIMとは?

FIM(機能的自立度評価法)とは、生活を営む必要最小限度の能力を把握するため、ADL(日常生活動作)機能を測定する臨床で最も一般的な評価方法です。運動項目13項目と認知項目5項目からチェックして点数化を行います。

FIM利得とは、入院から退院まで、どれくらいFIMが増えたかの得点であり、回復期リハビリテーション病棟における回復の度合いを示すアウトカム指標として一般的に用いられています。

重症者への診療体制も充実

当院では、入院者の重症度割合が41.7%と非常に高く、回復期リハビリ病棟の施設基準を大きく上回っています。リハビリ医療に豊富な経験を有する医師を柱として、重い疾患や身体合併症に対応できる診療体制を整えています。経鼻経管栄養や気管切開から経口摂取への切り替えを促進するなど、重症者の機能回復に対して有効な診療アプローチにより、基準以上の重症改善率を実現しています。

	当院実績*1	全国平均	回復期1基準*2
重症患者率(B項目)	60.3%	37.5%	30%以上
重症者改善率	73.5%	—	30%以上

重症患者(B項目): 日常生活機能の評価を行い、点数から重症と認められる患者
重症者改善率: 入院中に一定以上改善した重症者の割合
経管抜去率: 入院後に経管栄養から経口摂取へと切り替わった患者の割合

*1——2019年度当院実績

*2——回復期1とは、「回復期リハビリテーション病棟入院料Ⅰ」のことです。
回復期病棟の中では、厚生労働省が定める最も高い病棟基準となります。

当院の在宅復帰率*1

84.7%

全国平均

78.6%

回復期入院料1基準

70.0%

在宅復帰を視野にリハビリ計画を作成

当院では、一人ひとりが元の生活に戻っていただくことを第一の目標として重視しています。入院の際は、まず在宅復帰を念頭にリハビリ実施計画を策定し、ご本人の能力ができる限り引き出されるように力を尽くします。症状が重い方を含め、リハビリを実施した結果として、高い在宅復帰率を達成しています。

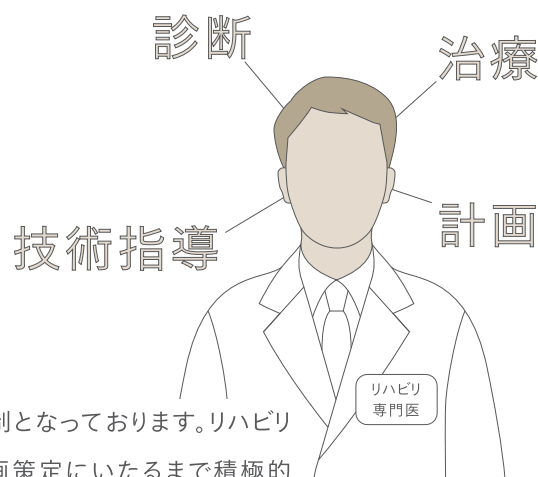
*1——2019年度当院実績

*2——「回復期リハビリテーション病棟の現状と課題」2017.2

質と体制

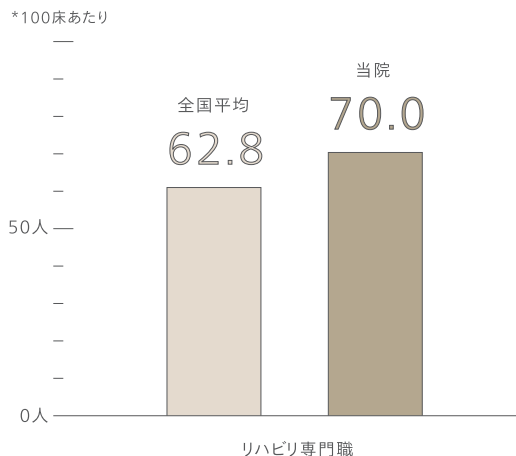
チーム力と専門性が支える、充実のリハビリ環境。

高度な医療を提供し、疾患ごとに最適なアプローチを追求します。

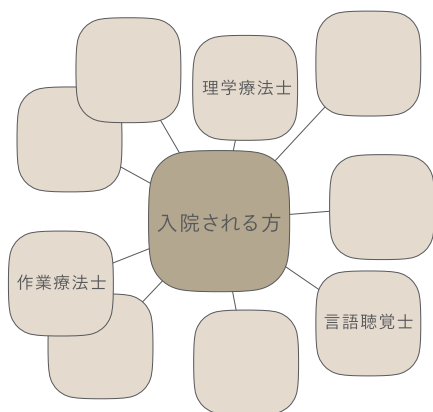


専門医が関わる診療体制

当院は、リハビリ専門医の資格を有する医師が直接診療を行う体制となっております。リハビリ専門医は療法士の技術指導を行うほか、診断・治療やリハビリ計画策定にいたるまで積極的に関与することにより、質の高い医療を提供しています。

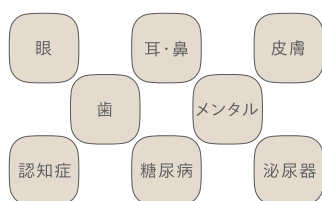
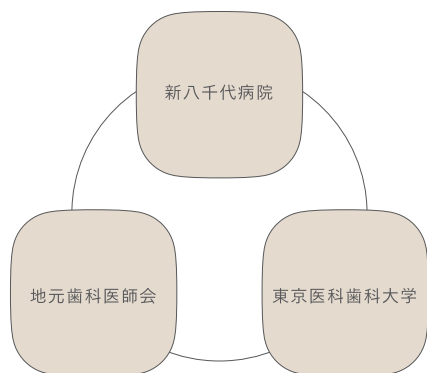


多くのリハビリ専門職が在籍し、
質の高いチームアプローチを実現



高密度のリハビリを毎日実施

当院では、リハビリ専門職が8～9名で1つのユニットを作ります。各ユニットは一人ひとりを継続的に担当することで病状を深く理解し、チームで連携して集中的なリハビリを行うことから訓練の質が高まります。1日当たり8.5単位のリハビリ実施数は、全国平均*1と比較して高い水準にあり、密度の高い訓練による機能回復効果が認められています。休日を含め、365日毎日リハビリを行う環境が整備されています。



失語症	言葉を聞く、話すことが難しい
失行症	道具を使った行為が難しい
失認症	物事を正しく認識できない
記憶障害	新しいことが覚えられない
注意障害	ぼんやりしている
半側空間無視	左側にあるものを見落とす
社会的行動障害	いらいら、意欲が欠如する

リハビリ分野の専門性と、 広範な疾患に対応する柔軟性を両立

摂食嚥下分野での先進性

飲み込みに問題のある摂食嚥下障害においては、東京医科歯科大学の技術協力を受け、摂食嚥下リハを行っています。嚥下外来においては地域と連携し、地元の歯科医師会への技術指導を行っています。

様々な診療科の合併症に対応

当院外来には多くの診療科を揃え、既往症や合併症に対しても専門医がきめ細かく対応することが可能です。主治医と複数の診療科が連携し、入院中も継続的にフォローアップできる診療体制は当院の強みです。

高次脳機能障害を専門医が診断

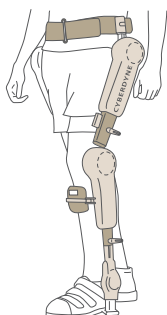
高次脳機能障害に対しては、言語聴覚士や作業療法士が専門的評価手法を用い、リハビリ専門医*1が直接介入して診断を行っています。

*1——日本リハビリテーション医学会専門医

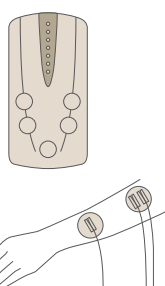
最新医療の動向を注視し、 定評のある先進リハビリ機器を導入

リハビリ医療分野では、テクノロジーの進歩に伴い、先進的な治療機器が次々と開発されています。末梢神経や筋肉を電気刺激して機能改善や麻痺自体を改善する機能的電気刺激療法や、ロボティクスや装具など歩行支援機器がその例です。当院では、業界で高い評価を受けているリハビリ機器を積極的に導入しています。

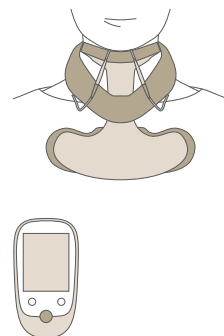
HAL®
(Hybrid Assistive Limb®)
CYBERDYNE株式会社
世界初の機能改善治療のための装着型サイボーグです。疾患などで身体が動かしづらくなった方であっても、意思に従った動作が可能となり、このような運動を繰り返すことで機能改善が促進されます。



IVES
(随意運動介助型電気刺激)
オージー技研株式会社
手指などの麻痺した筋肉の微弱な筋電信号を電極で感知し、最も適した電気刺激を麻痺した筋肉に与え、筋肉の動きを改善させることを目指した携帯型の電気刺激装置です。



イトーPostim
伊藤超短波株式会社
摂食嚥下障害の方にも使用できる電気刺激装置です。喉の表面に電極を貼り、電気刺激を与えることで筋の再教育を図り、摂食嚥下機能の改善を促します。



サポート

入院時の相談から、退院後の生活まで。

ご家族や地域とのつながりを考え、しっかりと支援していきます。

退院後も安心の診療とリハビリ

退院後の生活に不安を感じられる方は多いと思いますが、当院では継続的な診療とリハビリによるサポートを行います。たとえば、入院時の主治医がご相談に応じ、退院後に肺炎や骨折等で状態が悪化した場合であっても、フォローアップの外来を受診したり、短期の入院ができます。また、担当療法士が、退院後に訪問リハビリを継続することも可能です。

退院後の診療・リハビリサービス

フォローアップ外来 外来リハビリ

退院後の状態が変化しやすい時期に、当院ではフォローアップのための外来を受診することができます。

訪問リハビリ

要介護状態の方が、心身の状態の回復と悪化の防止を図り、ご自宅で安心して過ごせるように、療法士がご自宅に訪問してリハビリを行います。

通所リハビリ

要介護状態の方が、心身の状態の回復と悪化の防止を図り、ご自宅から施設に通っていただき療法士がリハビリを行います。

リコンディショニング入院

一度退院して以降も、体調の変化や病状に応じて心身の調整のために入院することができます。

当院の相談支援サービス

入院中

家屋調査
住宅改修

外出外泊
家庭内訓練

家族ケア

精神的
サポート

社会交流

退院支援

在宅調整
会議

サービス
担当者会議

入院から退院後まで、いつでも相談可能
当院は、入院時の相談から退院後にいたるまで、あらゆる局面で相談による支援を受け付けています。入院中に抱えられたご不安、ご自宅復帰に際し想定される事柄など、どのようなことでもお気軽にご相談ください。入院相談センターと病棟が窓口となり、さまざまな医療的なサポートやご提案をいたします。退院後も、関係機関と連携を常に図り、その後の生活状況等についてお伺いするなど、さまざまなフォローアップを行います。

地域と社会からの信頼を基礎に

35年

*1——2005年1月、病棟開設。2008年7月回復期リハビリテーション病棟入院料¹取得。

認定証



医療法人社団心和会
新八千代病院

☆☆☆

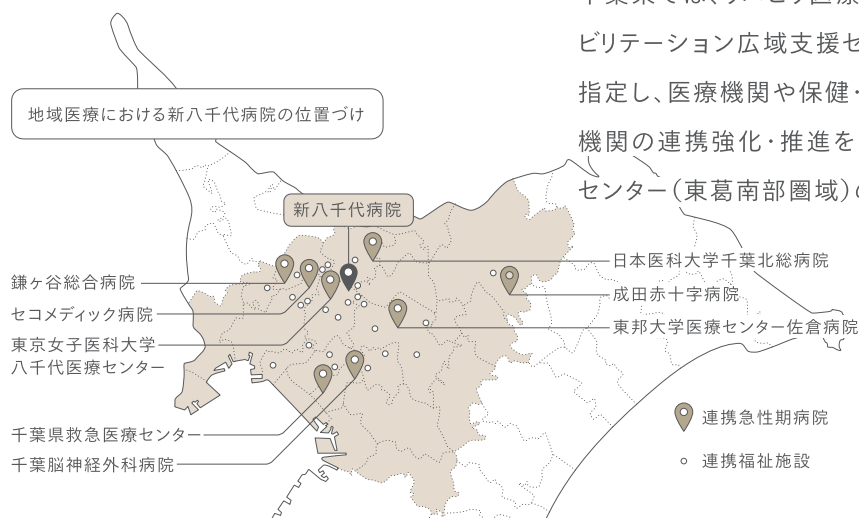
病院機能評価を取得

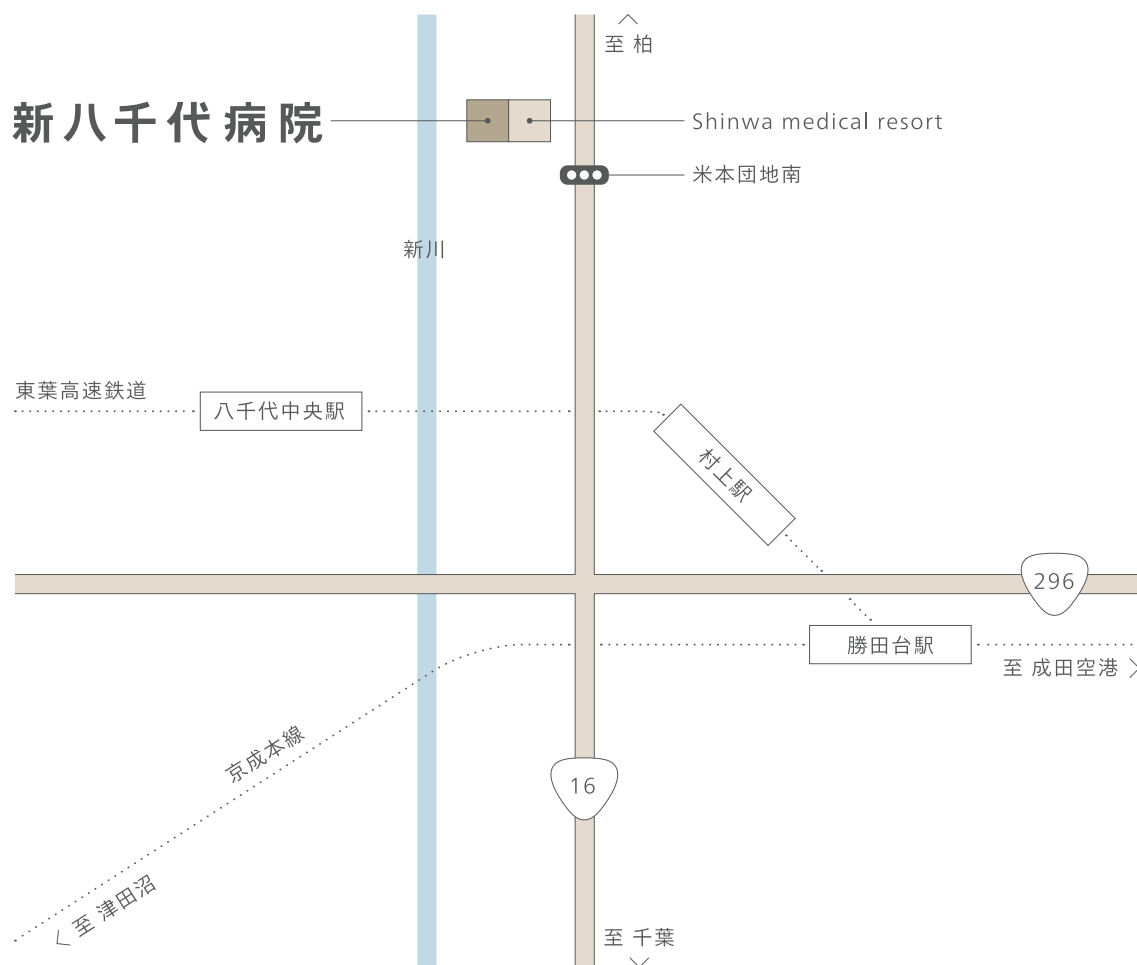
当院の病院機能に対する組織体制及び運用における水準に関し、公益財団法人日本医療機能評価機構から病院機能評価の認定を受けています。

地域リハビリテーション広域支援センター

千葉県では、リハビリ医療において地域の基点となる地域リハビリテーション広域支援センターを二次医療圏域に1か所ずつ指定し、医療機関や保健・福祉施設、市町村、保健所等の関係機関の連携強化・推進を図っています。当院は、2006年に同センター（東葛南部圏域）の指定を受けています。

地域医療における新八千代病院の位置づけ





交通のご案内

京成電鉄・東葉高速鉄道／勝田台駅からのご案内

勝田台駅から東洋バスで米本団地行約15分
米本団地入口下車徒歩2分

東葉高速鉄道／八千代中央駅からのご案内

八千代中央駅から東洋バスで米本団地行約10分
米本団地入口下車徒歩2分

病院バスをご利用の場合

当院では送迎バスを運行しております。
ホームページにてバス時刻表をご覧ください。
詳細はお問い合わせください。

お車をご利用の場合

国道16号線
柏方面より | 米本団地南交差点を右折
千葉方面より | 米本団地南交差点を左折

送迎サービスのご案内

回復期リハビリテーション病棟に入院されている患者さまへのお見舞いに、無料送迎サービスを行っております。
(八千代市/印西市/佐倉市にお住まいの方) 詳細はお問い合わせください。

新八千代病院

〒276-0015 千葉県八千代市米本2167 TEL: 047-488-3251(代表) FAX: 047-488-8807

<http://harmonic hearts.or.jp/shinyachiyo/>